

滝山城跡(八王子市)

築城年代:大永元年(1521)、築城者:大石定重

これは滝山街道沿いから北東方向に滝山城跡のある「都立 滝山公園」の丘陵を見たところ



専用の駐車場も設けられている



ここから天野坂を登り、三の丸跡方面へ進もう



説明坂が立っている



都立 滝山公園

公園案内図



広域図

所在地 八王子市滝月町、丹木町
開園年月日 昭和61年6月1日
開園面積 262,555㎡

◆公園概要

多摩川と秋川の合流点の南側に広がる加住丘陵にあり、都立滝山自然公園の一部です。
標高160mの公園の北には田園風景や多摩川の景観を望むことができます。
またここは、古くからのハイキングコースとして親しまれています。
付近一帯はサクラの名所としても知られ、ソメイヨシノ、ヤマザクラ約5000本が春を彩ります。

滝山城縄張図



作図：中田正光

◆滝山城跡

戦国時代中期に建てられた滝山城は、川沿いの絶壁を利用した典型的な山城で、今も本丸、二の丸、千畳敷、空堀などの貴重な遺構があります。
滝山城跡は、昭和26年に国の史跡として指定されました。

◆滝山の自然

園内の多くは自然豊かな雑木林で、季節ごとに様々な野草などが見られます。



◆おねがい



設置年月：平成25年3月
お問い合わせ先 小宮公園サービスセンター TEL042-623-1615

現在地→三の丸跡→千畳敷跡→二の丸跡→中の丸跡→本丸跡→信濃屋敷跡→刑部屋敷跡→小宮曲輪跡→山の神曲輪跡と進んでみよう



この案内板の横に置いてあるパンフレット

城址のある丘

都立 滝山公園

滝山城址見取図

本田 昇氏 作図
渡辺忠胤氏 写

0 100 200



八王子市の北端、多摩川と秋川の合流点の南側に広がる加住丘陵は、一部が都立滝山自然公園に指定されています。

都立滝山公園はこの自然公園の中ほどにあり、多摩川を望む標高約160mの丘に滝山城址があります。城址は遺構の保存状態がよく、周辺は豊かな雑木林に覆われています。

滝山公園は昔から桜の名所、あるいはハイキングコースの丘として親しまれてきましたが、四季を通じて雑木林がおりなす彩りにも、また心が和みます。





滝山公園の礎

滝山城址



本丸址

国指定の史跡、滝山城は戦国時代の中頃、大永元年（1521年）に武蔵国守護代の大石定重が、この城の北西約1.5kmの高月城から移り築城したものと伝えられます。

定重の子定久のとき北条氏康の支配を受け、その子氏照を養子に迎えて、滝山城は大石氏から北条氏照の居城となりました。氏照はさらに城を拡充し、その規模雄大さは当時関東屈指の山城と称されました。本丸、中の丸、二の丸、空堀などの巧みな遺構にそれがうかがえます。

上杉謙信、武田信玄などから猛攻を受けた滝山城ですが、なかでも信玄、勝頼父子による永禄12年（1569年）10月の城攻めは、熾烈を極めたといわれます。後に北条氏照は領地の備えをより固めるため、南西約9kmの地に八王子城を築き滝山城から移りました。移転の時期は定かではなく、天正の中頃（1580年代）と推測されます。

白亜の天守閣も、高い石垣もない、典型的な中世城郭の縄張りをもつ滝山城ですが、木立の深い城址にたたずむとき、かつて名城といわれた滝山城の面影がしのべれます。

滝山公園の植物

本来この地の植生の中心はシラカシでした。現在見られるコナラやスギなどの林は、後に薪炭材あるいは建築材などを得るため、人が手を加えた二次林といわれる林です。

主な樹木…コナラ、クヌギ、エゴノキ、ホオノキ、ソメイヨシノ、ヤマザクラ、シラカシ、スギ、ヒノキ、アカマツ

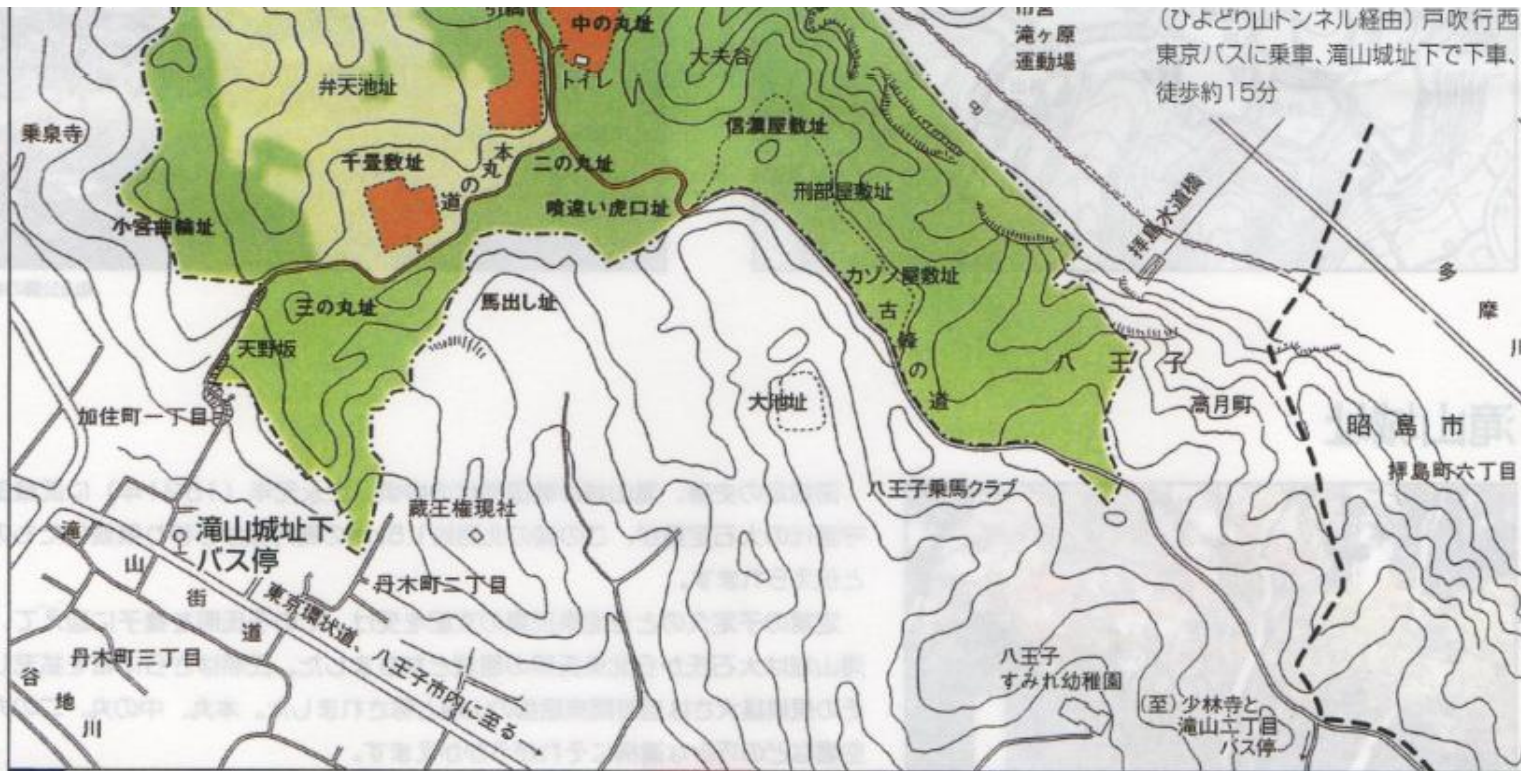
城下町

滝山城下には横山、八日(市)、八幡の三宿が、小規模ながらも城下町をかたちづくり市も開かれていました。

この三宿も城とともに八王子城下に移りましたが、落城後は現在の市内に移り市の中心として発展してきました。また元の場所にも地名が残りました。元八王子と呼ばれるゆえんです。

都立滝山公園 案内図と八王子周辺図





(ひよどり山トンネル経由) 戸吹行西
東京バスに乗り、滝山城址下で下車、
徒歩約15分

公園の概要

公園所在地 八王子市高月町、丹木町
 都市計画決定 昭和46年11月9日(当初)
 開園年月日 昭和61年6月1日
 開園面積 約259,206㎡(H15年6月)
 文部省史跡指定 昭和26年6月7日
 都立滝山自然公園指定 昭和25年11月7日

園内でのお願い

1. ゴミや犬の糞は持ち帰りましょう。犬の放し飼いはやめて下さい。
2. 野草や昆虫等は採らないで、みんなで公園の自然を守りましょう。
3. 煙草の投げ捨てや焚き火などは山火事の原因です。やめて下さい。
4. 公園の管理上、禁止されていることがらについてはご協力下さい。

【問合せ先/指定管理者】都立小宮公園サービスセンター
 〒192-0043 八王子市暁町2-41-6
 電話：042-623-1615 FAX: 042-628-4544
 ※8時30分～17時30分(年末年始を除く)
 史跡関係：八王子市教育委員会 文化財課
 電話：042-620-7265

西武・多摩部の公園パートナーズ
 西武造園株式会社/西武緑化管理株式会社
 NPO法人 NPO birth/一般社団法人防災教育普及協会

地域を輝かせる 個性きらめく公園に
 駿河公園、小宮公園、滝山公園、大戸緑地の4つの都立公園を管理しています

Seibu Tamabu Partners
 多摩部の都立公園

さて、ここから登っていく/車両は通行禁止



ここは天野坂でこのルートが大手道のようにだ



左右に折れながら登っていく/右上に小さな神社があった



こんな具合/このエリアも腰曲輪跡の一つのようだ



そこから右手を見たところ/このエリアの先が三の丸跡



さて、左下に堀跡が見えてくる/左手は小宮曲輪跡で、この堀跡はそれを取り巻いている



堀底に降りて見たところ/左手は小宮曲輪跡



これは振り返って見たところ/右手に廻り込んでいる



その先もこんな感じ/この堀跡は山の神曲輪跡へ行った帰りにもう一度見てみよう



さて、左手に説明坂がある/左下は今の堀跡/右手前方のマウンドの上が三の丸跡



あまのざか
天野坂から
ますがたこぐち
枳形虎口へ

滝山城縄張図



作図：中田正光

拡大図



※城道は現在の園路と違う箇所があります。

解説

大手口と思われる天野坂からの堀底道^{ほりそこみち}は、城兵が効果的に攻撃ができるように工夫されている。小宮曲輪と三の丸の間には枳形虎口(出入口)が設けられていた。(図の中で復元)

攻めのぼる敵側にとっては大変な脅威にさらされる場所で、侵入するのが難しかったと思われる。





説明坂の辺りから先程の堀跡を見返したところ/右手が小宮曲輪跡/堀跡はここで終わっている



正面のマウンドの上が三の丸跡でその手前に堀跡がある



これがその三の丸跡を取り巻く堀跡/左手が三の丸跡/右手が先程の神社のあった腰曲輪跡のエリア



この先は三の丸跡を取り巻くように左手に折れている



折れた先はこんな具合/左手が三の丸跡/この先は三の丸跡へ行った時に、もう一度見てみよう



さて、前方は小宮曲輪跡の柵形虎口跡があるところ



説明坂がある/左手が枳形虎口跡



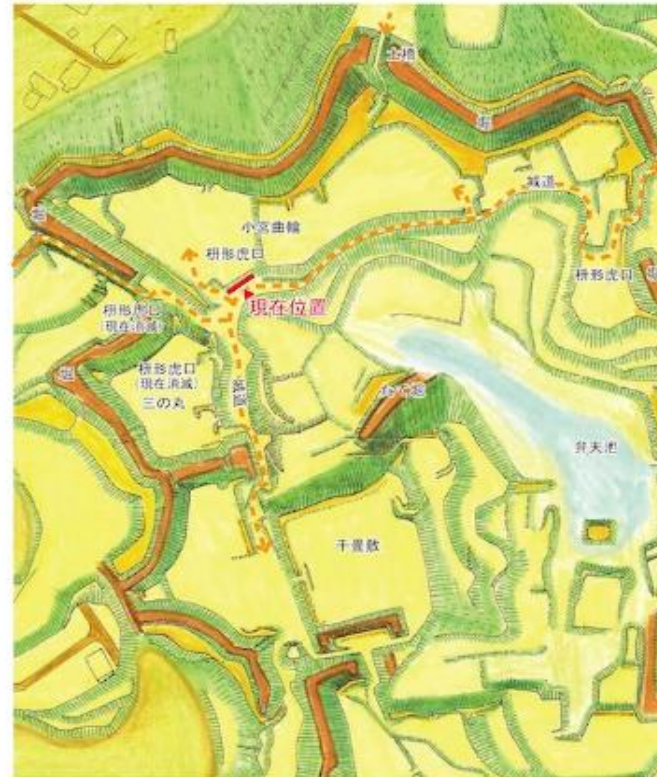
こみやぐるわ
小宮曲輪
(家臣屋敷)

滝山城縄張図



作図：中田正光

拡大図



※城道は現在の園路と違う箇所があります。

解説

「小宮曲輪」と称されてきているので氏照の家臣の中に西多摩地域出身の家臣(小宮氏)が活躍していたと思われる。

小宮曲輪の内部は土塁(土盛り)でいくつかの屋敷に区切られていたと考えられる。

小宮曲輪と三の丸の間には枡形虎口(出入口)があったが車道により消滅した。

(図の中で復元)





正面が柘形虎口跡



ここが小宮曲輪跡/進入禁止となっている



その先はこんな感じ



左下には最初に見た小宮曲輪跡を取り巻く堀跡があるようだ



右手を進んでいくと山の神曲輪跡へと続く/この先は後程行ってみよう



さて、大手道へ戻り、三の丸跡へと進もう



正面のマウンドの上は三の丸跡



説明坂がある/この先が「コの字型土橋(4回折り土橋)跡」



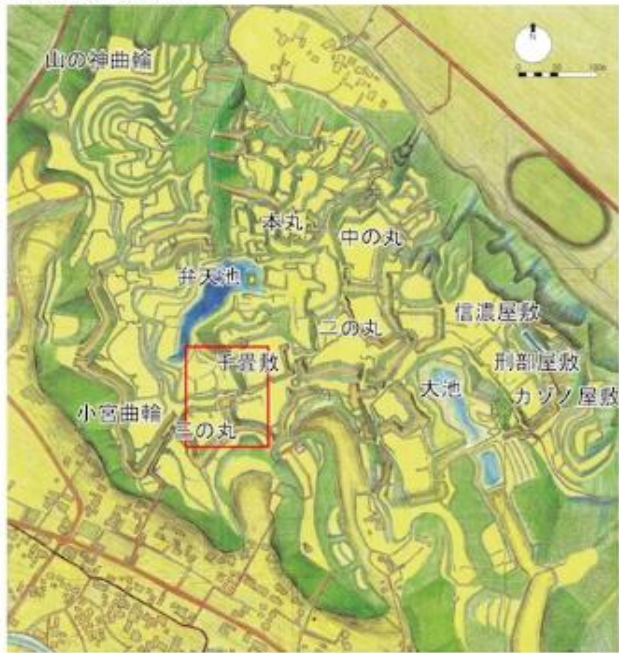
これは土橋を挟む堀跡/手前右手に延びている



この字型土橋

(強力な側面攻撃)

滝山城縄張図



作図：中田正光

拡大図

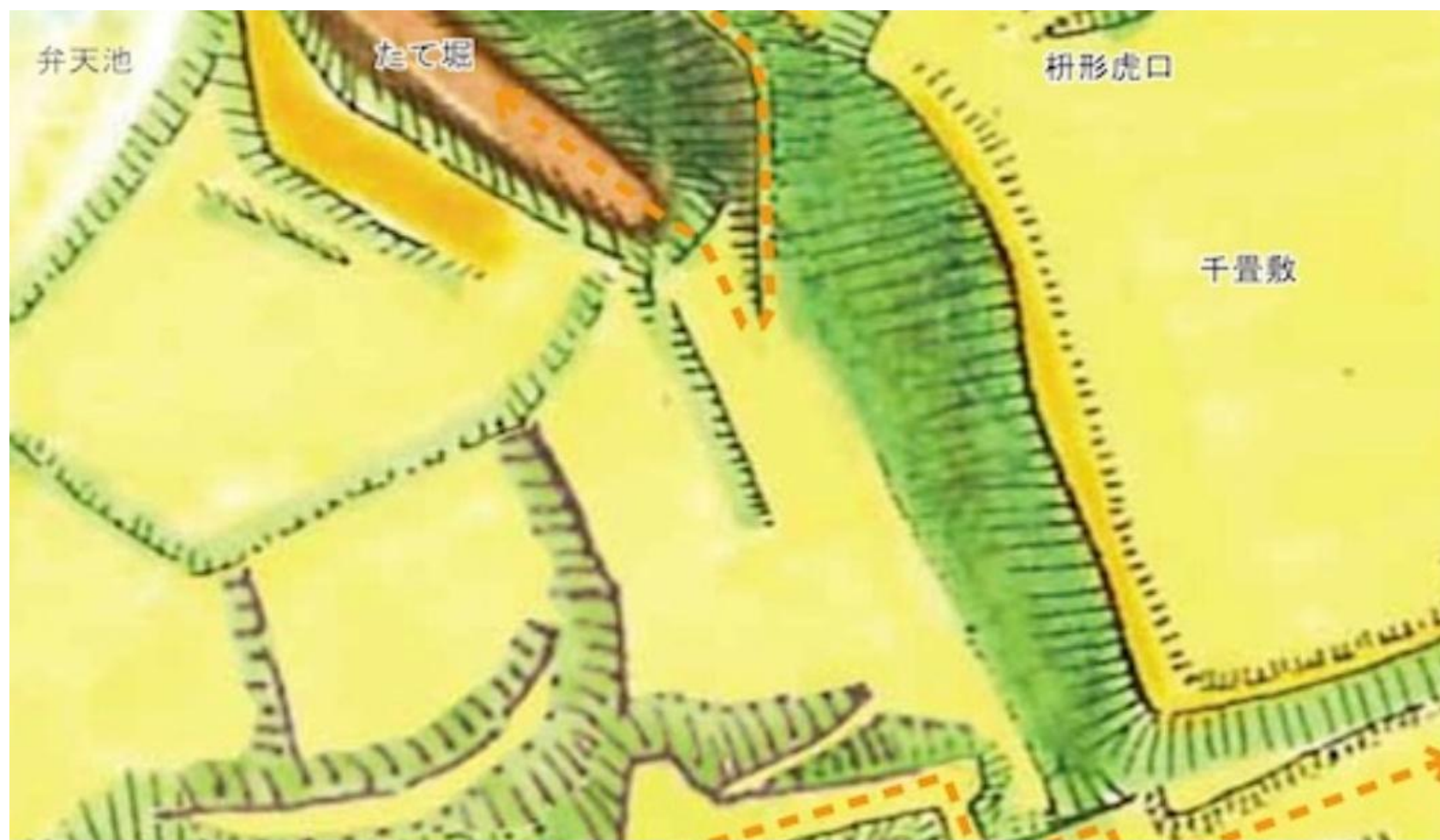


※城道は現在の園路と違う箇所があります。

解説

堀を掘る際に、一部を土のままに残し通路として使う場所を土橋という。当時はもっと狭く、敵方の侵攻に対して4回も体の向きを変えて進ませ、側面攻撃ができるように工夫していた。

敵の直進を防ぐための土橋であり、大変貴重な城郭遺構である。





現在位置

城道 (寄せ手の進む方向)

堀

桁形虎口
(現在は消滅)

三の丸

想像図

木戸

小舟

4回折り土橋

たて籠

木戸

現在位置

寄せ手

手前右手に延びている堀跡を見たところ/右手は三の丸跡/左手もそのエリア



堀跡の先はこんな具合で延びている



土橋を渡ってから見た堀跡



ここが三の丸跡



三の丸跡から今見た堀跡を見下ろしたところ



その右手はこんな具合/この堀跡は三の丸跡を取り巻く堀跡へと繋がっている



それでは三の丸跡を取り巻くこの堀底に下りて見よう



これがその堀底から三の丸跡と堀跡を見上げたところ



さて、ここで三の丸跡を取り巻く堀跡を二の丸跡方向へと進んでみよう



右、左へと折れながら続いている



前方が開けてきた



この先は私有地の耕作地となっているようだ



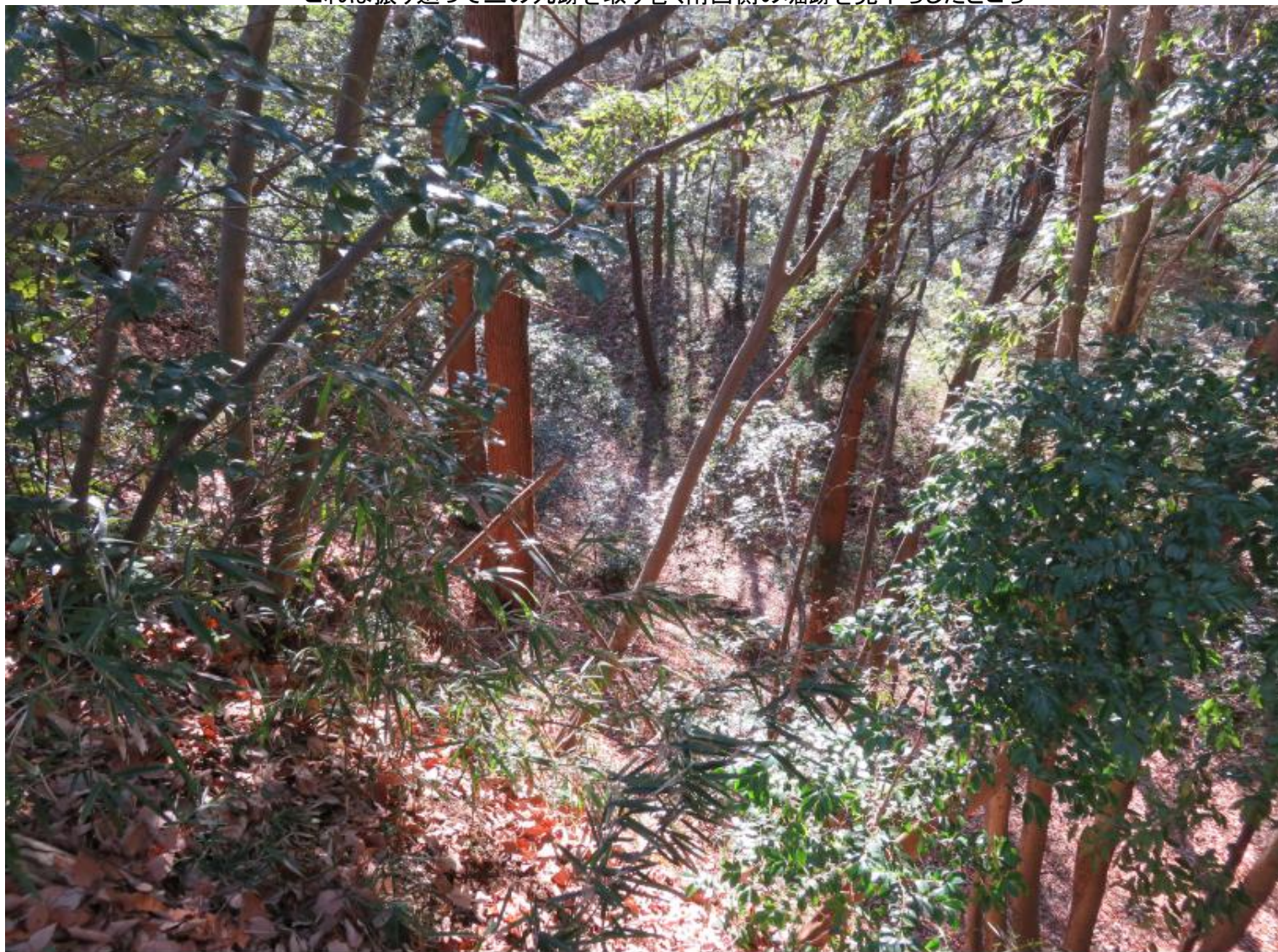
左手を見上げると二の丸跡への侵入を防御する「千畳敷角馬出」のある辺りが見える



さて、三の丸跡に戻って、これは南西側から北東方向(二の丸跡方向)に見たところ



これは振り返って三の丸跡を取り巻く南西側の堀跡を見下ろしたところ



そしてその右手を見たところ/前方が小宮曲輪の柵形虎口跡があったエリア



さて、大手道へ戻って更に二の丸跡方向へ進む/正面のマウンドの上は千畳敷跡



左手を見ると千畳敷跡への柵形虎口跡が見える



アップで見たところ



ここは「コの字型土橋(4回折り土橋)跡」



さて、「コの字型土橋(4回折り土橋)跡」を抜けてくると、左手が千畳敷跡/右手は三の丸跡のエリア



正面は右手の三の丸跡のエリア



こんな感じ



こちらは左手の千畳敷跡



東側から西方向に見たところ



そこから右手を見ると説明坂がある



うま だし 馬 出

(少人数で守れる出入口前の防御設備)

滝山城縄張図



作図：中田正光

拡大図



※城道は現在の園路と違う箇所があります。

解説

虎口(出入り口)の前方に設けた空間を馬出という。この場合は方形
に作られていることから「角馬出」と呼ばれている。馬出があること
によって大変堅固な守りとなり、守備する城兵の出撃も容易である。
二の丸の三ヶ所の出入口には馬出がそれぞれに設けられている。



千疊敷

堀

角馬出



「千畳敷角馬出」は二の丸跡への侵入を防御する三ヶ所の馬出の一つである

◆二の丸拡大図



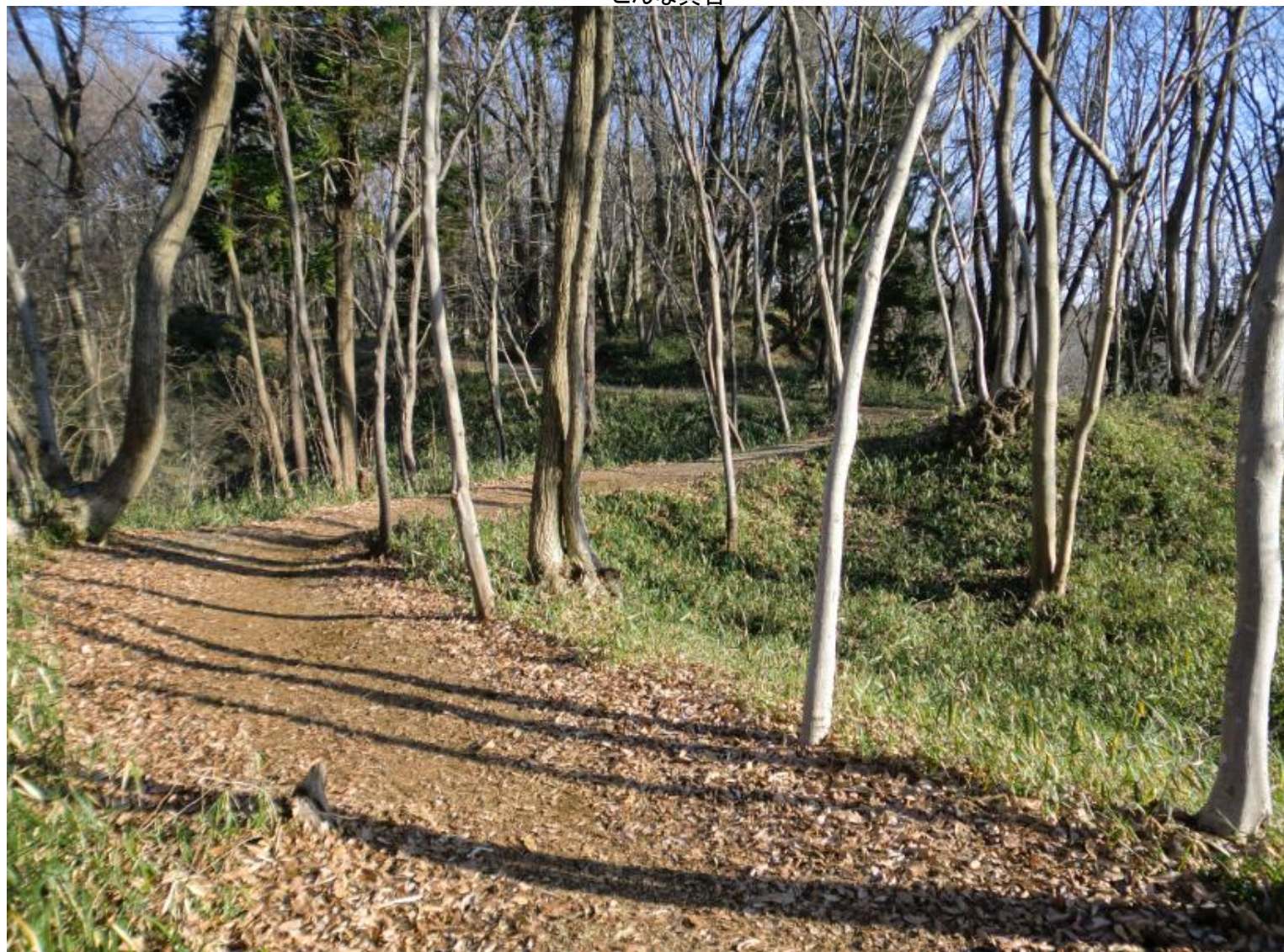
前方が「千畳敷角馬出」



ここから右手に堀跡を廻り込んでいく



こんな具合



これは右手の掘跡を見たところ/その右手が千畳敷跡



「千畳敷角馬出」を抜けてから振り返って見たところ



これは堀跡を先程と反対側から見たところ/左手が千畳敷跡



さて、これは千畳敷跡を西側から東方向に見たところ



その左手を見ると説明坂がある/正面は北西方向



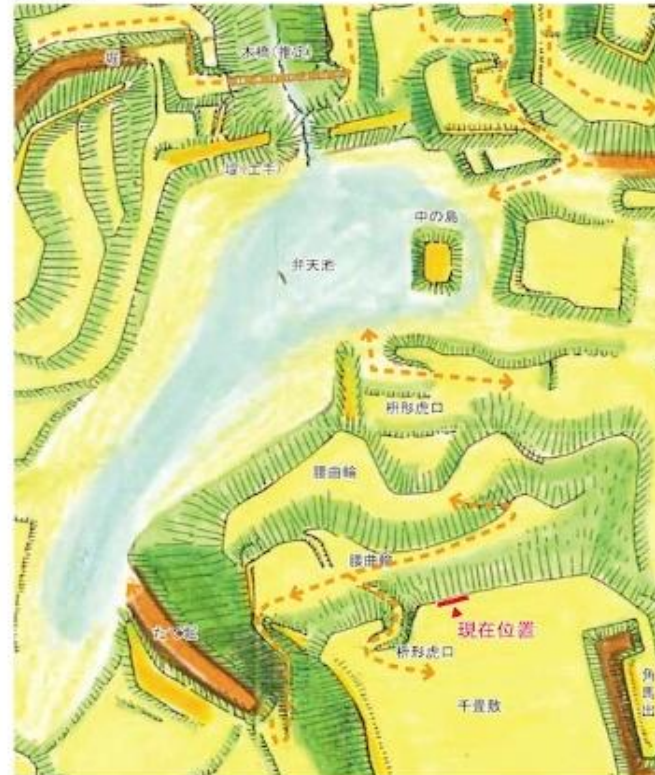
べん てん いけ
弁天池跡
うたげ
(宴を楽しむような池と推定される)

滝山城縄張図



作図：中田正光

拡大図



※城道は現在の園路と違う箇所があります。

解説

眼下には中の島と池跡が見える。実は、氏照の弟、氏邦の鉢形城(埼玉県寄居町)にも中の島があり、その池を「弁天池」と呼んでいた。

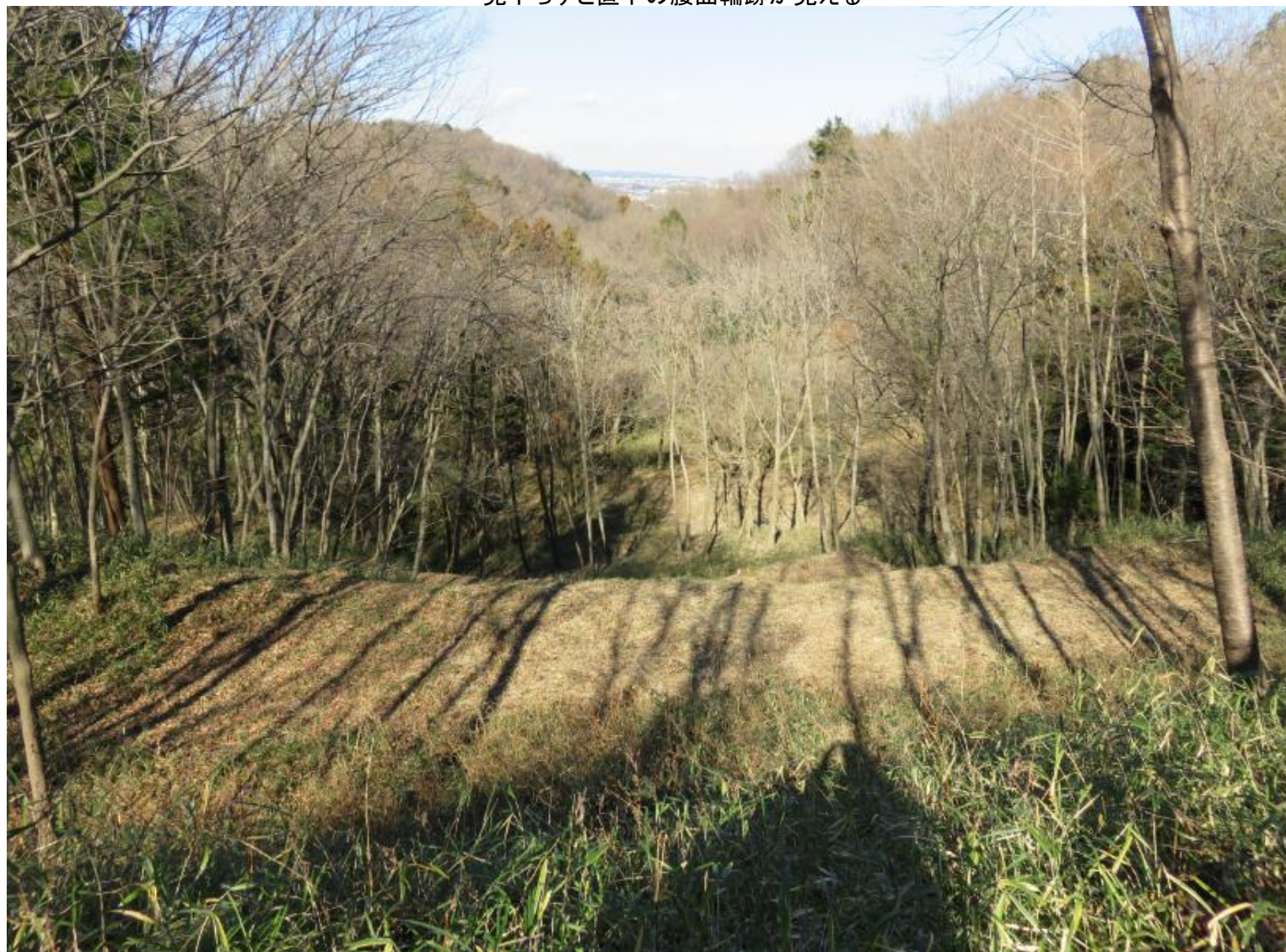
今では池をせき止める土手は分断されているが、当時はつながっていて湧水や雨水を溜めていた。

小舟を浮かべて宴を楽しむような池だったように思われる。





見下ろすと直下の腰曲輪跡が見える



左手を見ると柵形虎口跡のようだ



そこを進むと右手に先程の千畳敷跡直下の腰曲輪跡がある



その腰曲輪跡から北西方向下を見るともう一段、腰曲輪跡が見える



左手を見たところ



右手を見たところ



更に北西方向下をアップで見たところ/この辺りが弁天池跡のようだ



さて、先程の柘形虎口跡を左手に折れていく



ここから下っていく



向こうは三の丸跡方向



振り返って見上げたところ/ここは大手道から見えた千畳敷跡への柵形虎口跡である



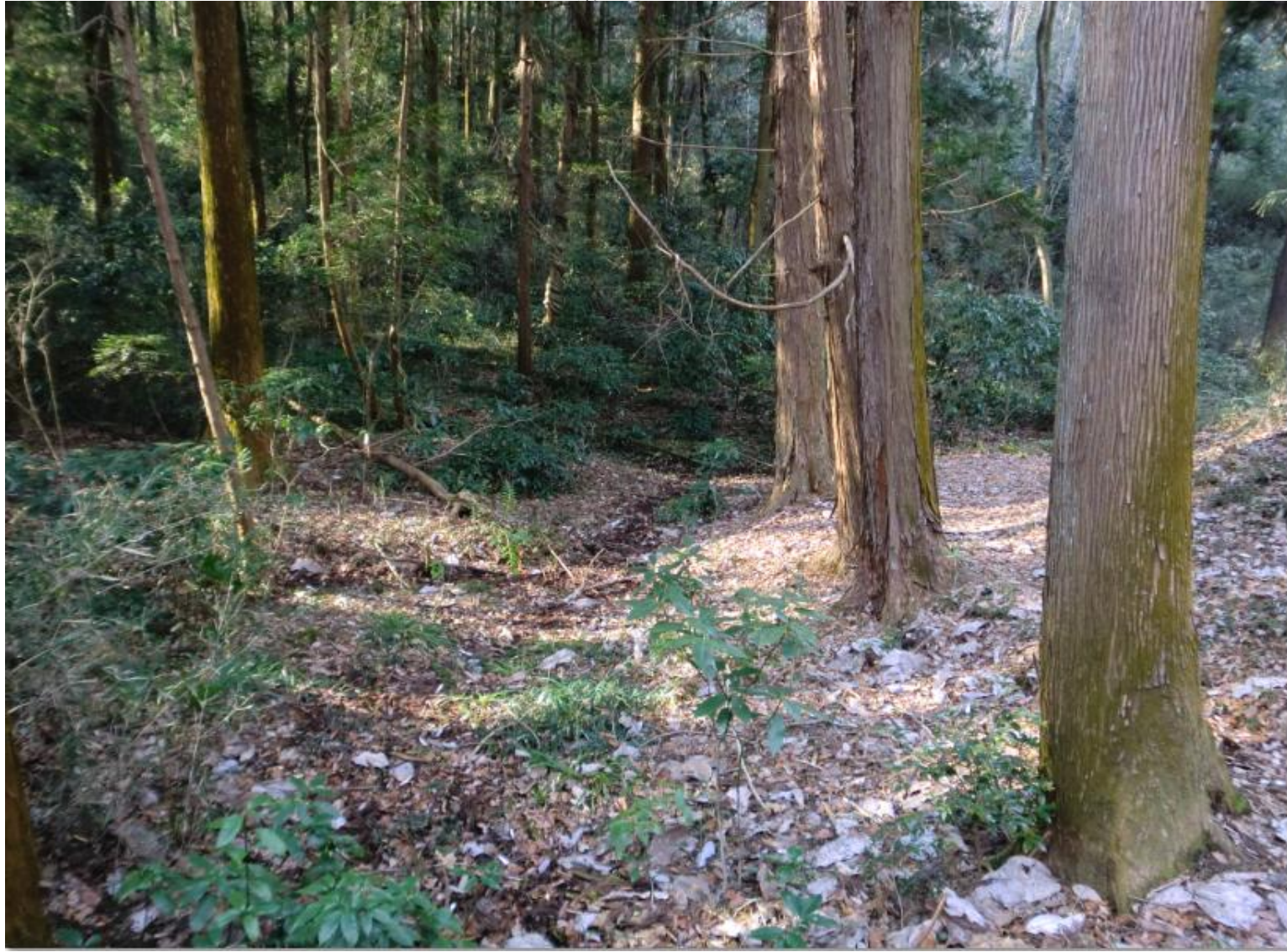
その左手を見ると斜面を急激に下っている



これが弁天池跡へ落ちる豎堀のようだ



落ち切った辺り



ここが弁天池跡であろうか



大手道まで戻ることしよう/豎堀を見上げたところ



さて、これは大手道で「千畳敷角馬出」とは反対側(右手)を見たところ



敵兵が大手道を進んできて二の丸跡へ攻め込むには、「千畳敷角馬出」へ進む以外にこの城道から攻め込むルートがある



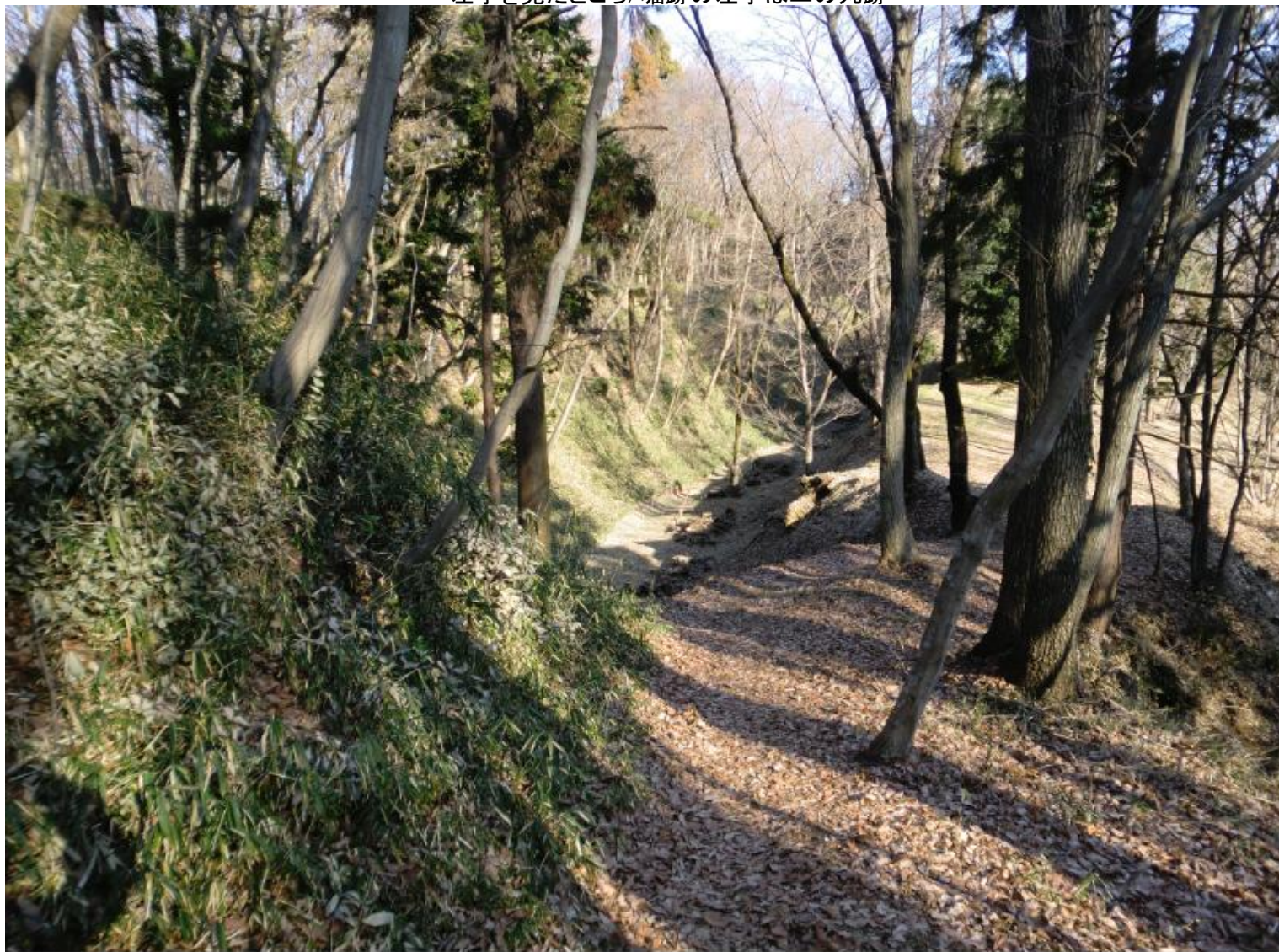
右手を見たところ



その右下を見たところ/前方奥の右手に三の丸跡を取り巻く堀跡が延びてきている



左手を見たところ/堀跡の左手は二の丸跡



敵兵はここを進むと二の丸跡からは丸見えで、城壘上からの攻撃を受けることになる



左手を見たところ



右手を見たところ



更に前方へ行くと、二の丸跡へのもう一つの「角馬出」(左手)や「大馬出」(右手)があり、二の丸跡の防御を固めている



これはもう一つの「角馬出」辺りから振り返って見たところ/堀跡の右手が二の丸跡



もう一つの「角馬出」は後ほど見るとして一旦、大手道へ戻ることにする



正面の上が「千畳敷角馬出」



さて、大手道へ戻り「千畳敷角馬出」を抜けて二の丸跡方向へ進むことにする/手前の堀跡の向こうが二の丸跡



右手を見たところ/今見てきたエリア



城道を二の丸跡方向に進む



突き当たりに出た



左手を見たところ/こちらに進むと中の丸跡、本丸跡に至る



右手を見たところ/こちらに進むと信濃屋敷跡方面に至る/この両サイドは二の丸跡



振り返って今来た方向を見たところ/正面から左手の平場は二の丸跡/手前の城道は信濃屋敷跡方面(左手)に向かう道/東側から西方向を見たところ



二の丸跡/一段上がっているのは仕切り土塁



これは仕切り土塁の向こう側を見たところ



これは仕切り土塁を横から見たところ



信濃屋敷跡方面(右手)に向かう城道の向こう側の二の丸跡のエリアを見たところ



そのエリアを北側から南方向に見たところ/右手の城道を進むと信濃屋敷跡方面に至る



反対にそのエリアを南側から北方向に見たところ



これは仕切り土塁のあった二の丸跡を東側から西方向に見たところ



これは二の丸跡の西側先端から二の丸跡を取り巻く堀跡や千畳敷跡を見たところ



振り返って二の丸跡を西側から東方向に見たところ



右手を見ると土塁状の高まりがある



その向こう側は先に見た二の丸跡を取り巻く堀跡



こんな具合



さて、信濃屋敷跡方面へ進んでみよう



ここは土橋で両サイドは堀跡/正面前方の平場は「東馬出」/ここから先が「喰違い虎口跡」である



左手を見たところ/二の丸跡(左手)と「東馬出」(右手)とを仕切る堀跡



右手を見たところ/「東馬出」(左手)と二の丸跡(右手)とを仕切る堀跡



ここが「東馬出」/信濃屋敷方面から二の丸跡への侵入を防御する平場/北西側から南東方向を見たところ



振り返って見たところ/堀跡の向こうは二の丸跡



北東側の堀跡を見下ろしたところ



「東馬出」を南側から北方向に見たところ



さて、更に進むとまた土橋がある/両サイドは堀跡/前方を左手に曲がると信濃屋敷方面に至る



左手の堀跡を見たところ/その左手は「東馬出」/右手前方は信濃屋敷跡



これはその左手の「東馬出」とそれを取り巻く堀跡を見たところ



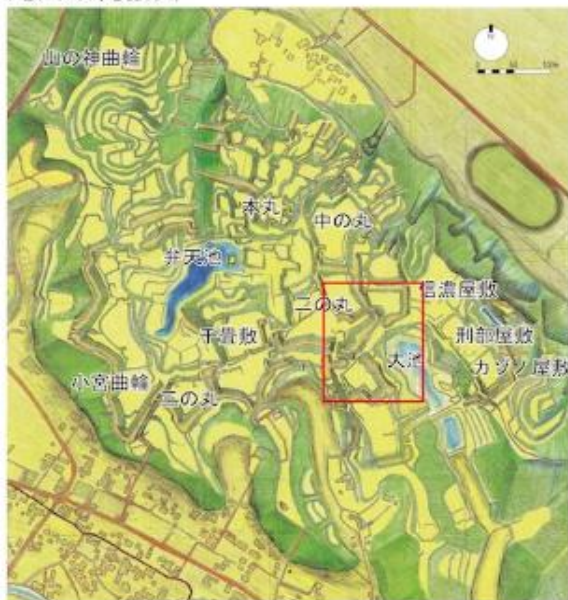
右手(信濃屋敷跡とは反対方向)に曲がるとそこは「行き止まりの曲輪」で説明坂がある/信濃屋敷跡方面へは後程行くことにする



くるわ 行き止まりの曲輪

(ふくろのねずみ)

滝山城縄張図



作図：中田正光

拡大図



※城道は現在の園路と違う箇所があります。

解説

「行き止まりの曲輪」とは「ふくろのねずみ」という意味で、両端が狭い土橋になっていて行き止まりのような形になる。寄せ手側には行き止まりのからくりだが、城兵からすると格好な馬出(出撃用)となり、実に巧妙な防御が施されている。

こうした「行き止まり」の曲輪は二の丸の南側にもあり、大変貴重な城郭遺構である。







滝山公園

◆解説

この城の大きな特徴は、二の丸の防御方法にある。二の丸へは三方面から侵入できるが、どの方面にも「馬出」という平場が備えられている。

その中の二ヶ所は方形の平場で「角馬出」と呼ばれている。寄せ手(敵方)はこの馬出を占拠しなければ、二の丸へは侵入できなかった。

こうした二の丸防御の堅固さから、永禄12年(1569)10月、甲斐武田信玄との滝山合戦において、城主氏照は二の丸櫓門の上で奮戦し、敵を退けたと軍記物に語られるようになった。軍記物の記述の真偽はともあれ、このとき氏照は自らの書状で古甲州道治いの城下「宿三口」へ兵を繰り出し戦ったと、越後の上杉謙信に伝えている。

◆二の丸拡大図



※城道は現在の園路と違う箇所があります。

文責：
滝山城跡群・自然と歴史を守る会
東京都西部公園緑地事務所
小宮公園サービスセンター
TEL:042-623-1615

◆二の丸拡大図



右手の部分が「屏風折り」/この先に「大馬出」がある



左手を見たところ/堀跡の右手が「大馬出」



少しこの先に行ってみよう



そこで左手の窪地を見たところ/この前方辺りが大池跡であろうか



振り返って見たところ/堀跡の左手は「大馬出」



さて、ここが「大馬出」/北側から南方向を見たところ



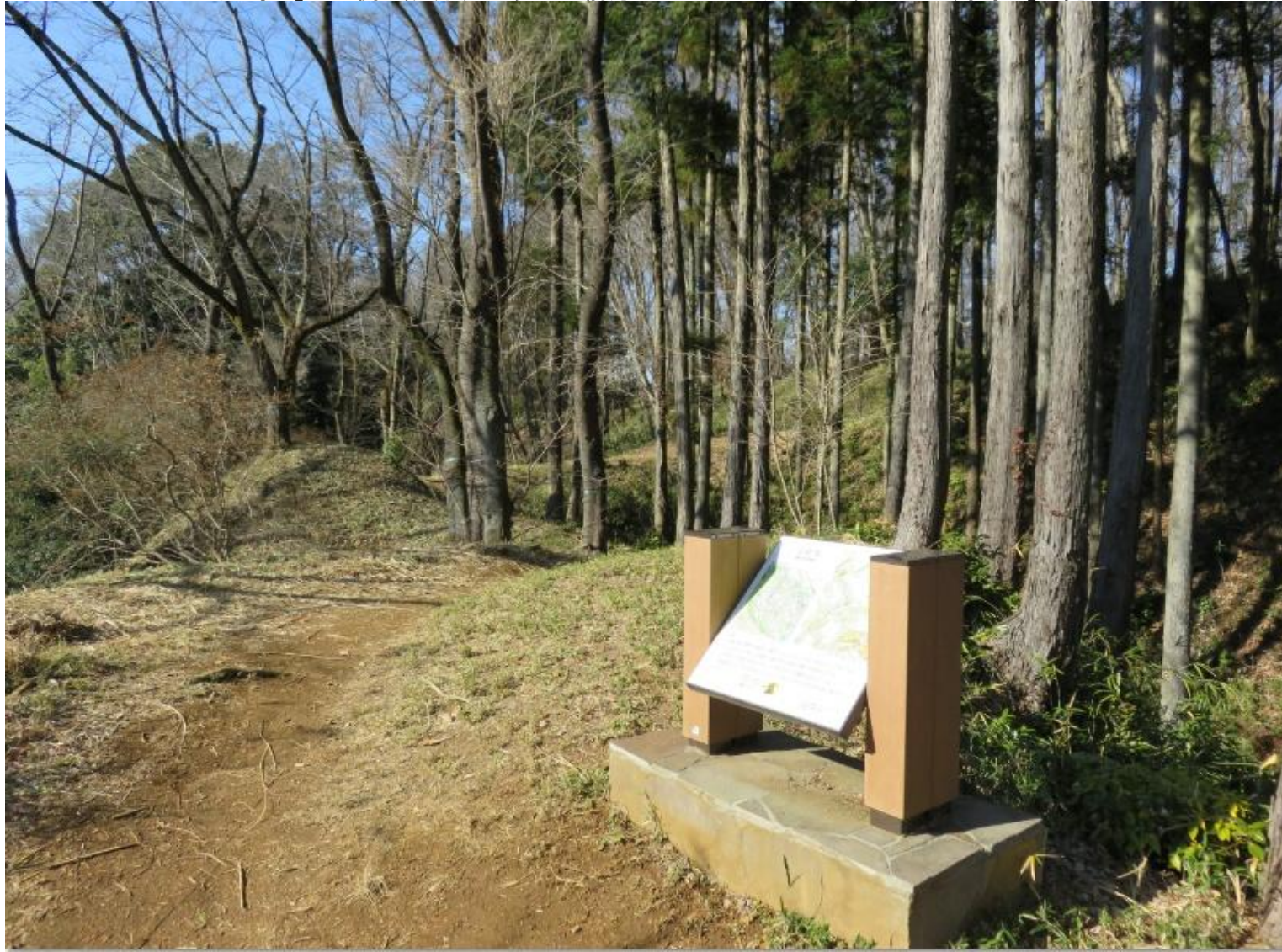
これは「大馬出」南側の土塁を見たところ



そこから振り返って北方向を見たところ



「大馬出」の北側に説明坂がある/左前方には二の丸跡へのもう一つの「角馬出」が見える



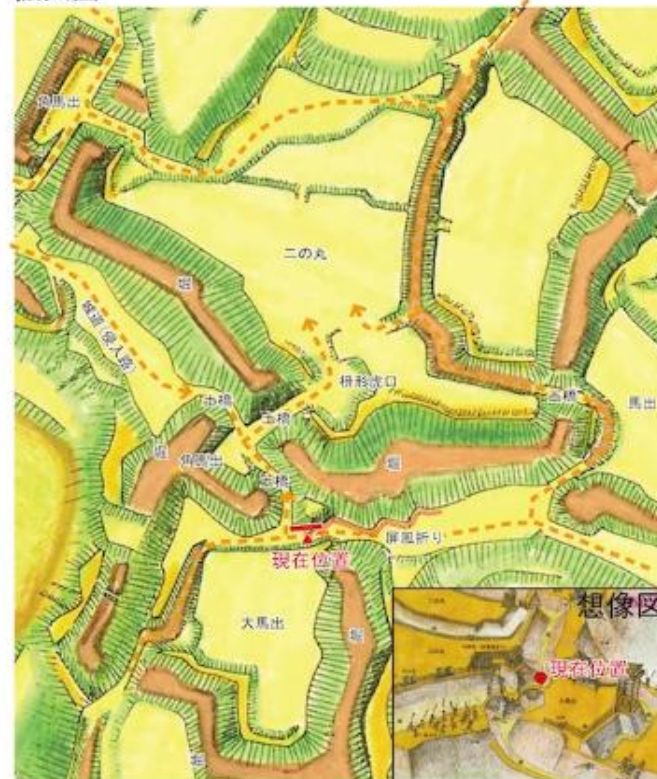
二の丸 (集中的防御)

滝山城縄張図



作図：中田正光

拡大図



※城道は現在の園路と違う箇所があります。

解説

滝山城で最も防御性に優れているのが二の丸である。三ヶ所の出入口にはすべて「馬出」を備え、集中的な防御の構えが認められる。

大馬出は^{おお}大勢の城兵が守り、二方向からの通路を抑えている。

築城家は、二の丸を防ぐことによって本丸、中の丸を守れると考えたようだ。





正面が二の丸跡へのもう一つの「角馬出」



そこから少し左手を見たところ/堀跡を挟んで右手がもう一つの「角馬出」、左手が「大馬出」



更に少し左手を見たところ/これが「大馬出」の切岸



さて、この土橋を渡ってもう一つの「角馬出」へ進もう



ここが土橋



右手に進むと二の丸跡への土橋を渡る



まっすぐ下ると先に見た「千畳敷角馬出」への城道



二の丸跡への土橋から左手を見たところ



同じく右手を見たところ



これは二の丸跡への土橋から振り返ってもう一つの「角馬出」を見たところ



ここは二の丸跡への枡形虎口跡



柘形虎口跡を抜けると二の丸跡



これは二の丸跡から今通って来た土橋(左手)、もう一つの「角馬出」(中央)、「千畳敷角馬出」への城道(右手)を見たところ



さて、いよいよ二の丸跡から中の丸跡、本丸跡方面に進もう



説明坂がある



中の丸南側の防御 やくらもん (櫓門の推定)

滝山城縄張図



作図：中田正光

拡大図



※城道は現在の園路と違う箇所があります。

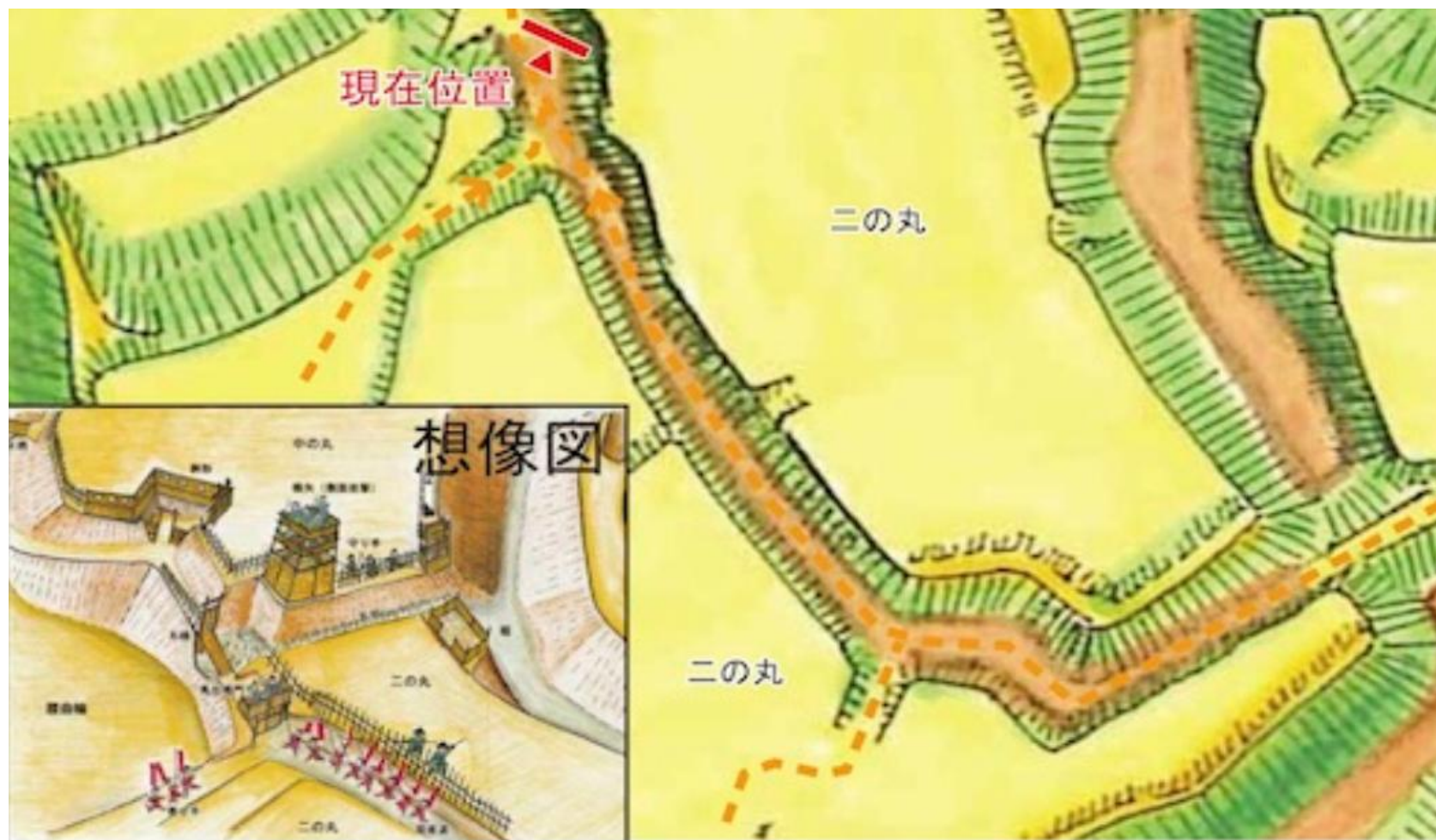


解説

中の丸の南側は二方向から攻め寄せられ敵が合流できる場所だった。

この場所には木橋の前面を守る防御設備が必要である。土塁の残り方から考えて、櫓門があったのではないかと推定される。





右手が中の丸跡で手前に堀跡がある/左手は腰曲輪跡



左手の腰曲輪跡を見たところ



更に左手を見たところ/かなり広い



右手の堀跡を見たところ/左手が中の丸跡、右手は二の丸跡



堀底を進んでみる



その先はこのように更に深い堀跡となって中の丸跡(左手)、二の丸跡(右手)を取り巻くように廻り込んでいる



これは右手の二の丸跡を取り巻いて延びる堀跡を見たところ



これは振り返って堀跡を見たところ/左手が二の丸跡、右手は中の丸跡



左手の二の丸跡の切岸を見上げたところ



右手の中の丸跡の切岸を見上げたところ

